

令和5年度（2023年度） 第5回函館市観光基本計画策定検討委員会 議事録	
開催日時	令和6年（2024年）1月11日（木）16:00～17:30
開催場所	函館市役所 本庁舎8階 第1会議室
出席委員	奥平委員長，古地委員，奥野委員，中島委員，一戸委員，飯野委員，渡部委員，織田委員，土田委員
欠席委員	西村委員，櫻坂委員
事務局	観光部長，観光部次長，観光企画課長，観光誘致課長，観光振興課長，国際観光課長，企画担当主査，企画担当主任主事
議題	函館市観光基本計画（素案）について

■ 議事概要

討議に先立ち，事務局より函館市観光基本計画（素案）について，資料1～2に沿って説明。その後，委員による討議を実施。討議の結果は以下のとおり。

<修正事項>

- 5ページ（1）函館市の観光の現状「■人口現状による産業の活力低下，担い手不足」の人口のデータについて，「いずれも日本人のみ」という記載があるが，担い手の中には外国人も含まれるため，様々な人を巻き込んでいくということを考慮すると，日本人に限定するような表現はしない方が良い。
→（事務局）当該表記は削除する。
- クルーズ客船に関する記述を加えるべき。
→（事務局）クルーズ客船の入港実績等について掲載する。
- 基本方針1の目標値について，平均宿泊数だけだと市民や他産業の事業者には関係がないように思われるため，平均宿泊数を増加させることで観光消費額が増えること，観光消費額の増加は一見無関係な他の産業の売上も増やすこと，これにより，より多くの市民を潤していくということを説明し，観光事業者以外の人にとっても関係があるということを表現すべき。
→（事務局）表現を修正する。
- 基本方針1の「■持続可能な観光地づくり」はどの施策と対応しているか分からないため，明示した方が良い。
→（事務局）全ての施策に関わると認識しており，個別の施策は設けていないが，そういった

考え方が分かるように表現を修正したい。

- ▶ 13 ページ「■持続可能な観光地づくり」の中で使用している「サステイナブル」という語句については、読み手に分かりやすいように、日本語で説明するか、用語の解説に含めるべき。また、表記としても「サステイナブル」と「サステナブル」が存在するため、再確認をお願いしたい。
→（事務局）用語の解説に追加する。
- ▶ 用語の統一がされていない箇所が複数あるため修正されたい。また、カタカナ語が多用されているため、読み手によって理解が異なるないように、用語については再確認をお願いしたい。
→（事務局）確認のうえ、修正する。
- ▶ 用語の解説の「LGBTQ+」の説明で、トランスジェンダーを「自認する性別と身体上の性別が一致しない」と表現しているが、現在は「身体上」ではなく「法律上の性」、「割り当てられた性」という表現を使うことが多くなっている。表現は市民部とすり合わせた方がよい。
→（事務局）確認のうえ、修正する。

<検討事項>

- ▶ 表紙のデザインは、一目見て計画の中身が伝わるような、メッセージ性やインパクトを持たせるべき。具体的には、基本理念の文言の掲載、基本理念の「照らす」というイメージやバラエティに富んだ観光資源を表現する画像を使用するなど。
- ▶ 7 ページの「■外国人観光客誘客などによる繁閑差是正の取組み」の中で、繁閑差の説明をしているが、「上半期が多い」というだけでは説明不足に感じる。
- ▶ 8 ページ下部の図において、「都市機能を整備」とあるが、整備するのか。記載の是非について再考されたい。
- ▶ 10, 12 ページなど、重要な部分は、もう少し文字を大きくした方がよい。
- ▶ 10 ページは、「照らす」という意味合いを表現するため、青ではなく明るい色味を使うべき。
- ▶ 11 ページのイメージ図について、基本理念との繋がりを表現できるような掲載箇所を検討されたい。
- ▶ 11 ページのイメージ図について、中央部が大きく表現されているが、一番重要なのは、ページ下部の函館市内で働く従業員とその家族であるため、ここを大きく表現すべき。色味が与えるイメージについても留意してほしい。
- ▶ 11 ページのイメージ図は縦で表現されているが、8 ページの図は横で表現されている。関連性を表現するため、色味も含めデザインを統一した方がよい。
- ▶ 13 ページ以降で用いられている「コンテンツ」という言葉は用語の解説に追加すべき。
- ▶ 第4章の「方針の考え方」と「施策」について、関連性が分かるように表現してほしい。（例：番号をつける、色で分ける等）
- ▶ 12 ページを見やすくするため、「はじめに」の部分にハッシュタグ等でキーワードつけるような手法も考えられる。

- 公的な文書であるため、色などの表現については、ユニバーサルデザインの観点からも検討されたい。
- 事業者にとって、この計画を自分事として捉えられる表現、施策の書き方をされたい。
- 15 ページの「■富裕層の誘客に向けた観光プログラムの造成、磨き上げ等を進める」の中で説明している富裕層のニーズについては、根拠・引用元を記載すべき（その他引用している箇所も同様）。
- 基本方針2について、繁閑差の説明については平準化指数の数値の意味合いをもう少し見える化すべき。例えば、施策に掲げた「インバウンド」、「イベント」、「教育旅行」毎に平準化指数を算出し、各市を比較するなど。
→（事務局）イベントについては数値を出すのが難しいと思うが、その他については検討する。
- 基本方針3について、読んだ時に市民がすべきことのイメージがわからない。市民がすべき取組の例示や過去の優れた取組を掲載してはどうか。また、優れた取組を広めることは応援する人を増やすことに繋がると考えられるため、施策として追加してはどうか。
- 計画（素案）全体として、観光は社会情勢の影響を受けやすく、それに合わせて柔軟に対応する必要があるということは伝わってくるが、反面、観光都市函館をこれまで支え続けてきたものは何か、守っていかなければならないものは何か分かりにくい。「今のままでいい」という部分も同時に示した方が、関係者の意欲喚起に繋がるのではないか。

<その他意見>

- 計画全体として、消費額増加や経済効果の重要性を訴えているのに、基本方針1の目標値が消費額とされなかったのは残念。
- 23 ページで掲載している他都市の平準化指数について、どうしてこのような数値になっているのか、要因が分かると目標値への理解も深まる。
→（事務局）今後、分析したい。
- 基本方針2の目標値（0.58 から 0.63 へ改善）について、「何万人増加させる」と表現した方がわかりやすい。
→（事務局）平準化指数については、函館市の課題である繁閑差の是正を数値化するため設けた指標のため、認知度は低い。しかし、計画の大きな方向性として、今までのように人数を追うのではなく、消費額を増やすことを掲げているため、人数での表現は差し控えたい。
- 基本方針3, 4の目標値設定のためのアンケートの実施時期、目標値の設定時期については明示すべき。
→（事務局）計画の進捗管理については、毎年度函館市観光アドバイザー会議で行うこととしており、目標値の設定、報告についても当該会議で行う。
- 基本方針3, 4の目標値に係るアンケートの実施の際は回収率を高くなるようにしてほしい。

また、社会調査やマーケティングを学んでいる学生等に協力いただいても良いのでは。回収率を向上させるには設問も重要。

→（事務局）アンケートの実施方法については、経費や効率性などを勘案し、様々な手法を検討している。実施にあたっては、回収率が高くなるよう努めるが、皆様からもご意見をいただければと思う。

- 基本方針3の「■函館市民が函館の魅力を再発見できる環境づくりを進める」におけるSNS等による情報発信の中で、「函館愛」という言葉は非常に良いと感じた。広めていく言葉として、「#函館愛」などのキーワードが2～3個あれば面白い。

→（事務局）事業として検討を進めているため、参考にしたい。

- 目標値の達成までの過程をもう少し表現した方が、段階が見えて良い。

→（事務局）年度毎に実施する施策を明示することが難しいため、現状このような表現となっている。

- 30ページの図について、平成27年のデータを使用しているのは古い印象を受ける。データがないため仕方がない部分もあるが、現時点の状況を反映しているのか懸念がある。

→（事務局）当該データは他機関の統計データを使用しており、時間的なズレが生じるのは致し方ない部分がある。市独自で調査を行い、データを取得する方法もあるが、経費面での検討が必要。